

# 安全追求 姿勢と取り組み

安全重点施策に基づき、具体的な取り組み方針を掲げて、経営トップから現場第一線の社員までが一丸となって安全を追求しています。

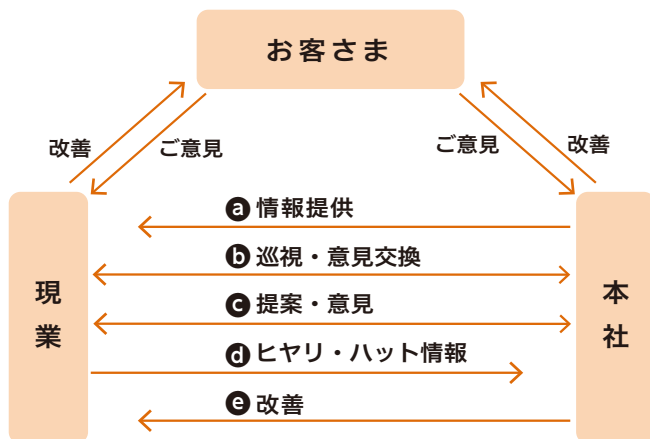
## 安全追求 輸送の安全を確保するための事業の管理方法

### 安全の確保への取り組み

問題点の把握や情報の収集・共有などについて、さまざまな取り組みを行っています。

#### ● 現業・本社一体での問題点早期把握と情報の伝達

社内での安全に関する情報を収集・共有し、問題点を早期に発見するため、経営陣が現場の取り組みを確認し、意見交換を行っています。



#### ① 情報提供

##### 「事故情報専用モニター」の活用

事故の再発防止のために、他社を含めた事故情報や再発防止策を迅速かつ正確に現場へ共有します。

#### ② 巡視・意見交換

##### 経営陣の現場巡視・意見交換会・「安全の日」の巡視

社長をはじめ経営陣が定期的に各職場を巡視して安全の取り組みを確認するほか、職場の課題について話し合います。

#### ③ 提案・意見

##### 職場意見交換会

本部長や各部門の管理職が現場を訪問し、職場の抱える問題点などについて話し合います。

#### ④ ヒヤリ・ハット情報

##### ヒヤリ・ハット情報の収集・共有

事故の未然防止のために、事故には至らなかったもののヒヤリとしたりハットしたという情報（ヒヤリ・ハット情報）を収集・共有し、問題の早期発見につなげます。

#### ⑤ 改善

##### 安全意識向上への教育・訓練システムの整備

「東急安全の日」を安全教育のうち最上位に位置付けた教育体系を構築し、一人ひとりが安全の重要性を理解し、行動につなげられることを目指します。

#### ▶ 「事故情報専用モニター」の活用

事故が発生した際、事故の概要や再発防止に向けた本社からの指示内容を、関係する従業員が迅速かつ正確に把握し、確実に実施することが重要です。当社では、そのツールとして「事故情報専用モニター」を用い、周知すべき内容を現場へ一斉配信しています。

また、ヒヤリ・ハット情報や他社の事故情報のほか、雪や強風、雷など気象状況に起因して発生しやすい事故情報を季節に合わせて配信したり、対策や取り組みを風化させないために、過去に発生した重大な事故や再発事故を抽出して配信するなど、部門ごとに情報の配信方法を工夫しています。



事故情報専用モニター

#### ▶ 経営陣の現場巡視

社長をはじめとして、経営陣が定期的に現場を巡視しています。巡視先では、各現場の安全に関する取り組みを確認するほか、課題を話し合うなど、経営陣と現場が一体となって問題解決に取り組んでいます。



城石安全統括管理者の雪が谷大塚乗務区での巡視の様子

#### ▶ 意見交換会

本社から見えにくい現場の潜在的な問題点を把握・改善すべく、社長や安全統括管理者などの管理者が全職場を訪問し、現場の従業員とリラックスした雰囲気でもの言合いを交わし、課題の改善につなげています。経営陣が、現場の従業員と直接意見を交換することで、風通しの良い組織文化の醸成につなげています。



現場の従業員と渡邊社長との意見交換会の様子

## ▶「安全の日」の巡視

毎月19日を「安全の日」として、各部門の部課長が現場を巡視しています。意見交換会と同様に、部課長と現場の従業員がコミュニケーションを図り、現場からの安全に関する提案や問題点を集め、対応することで安全性の向上につなげています。

## ▶ヒヤリ・ハット情報の収集・共有

事故には至らなかったもののヒヤリとしたり、ハットとしたという情報（ヒヤリ・ハット情報）に関する取り組みは、事故の未然防止を目的に部門・職場ごとに取り組んできましたが、見直し・強化を行いました。

鉄道事業は各部門が連携することで成り立つという考えのもと、各部門の取り組みを部門横断の取り組みにするため、既存の取り組みを基本としながら、ヒヤリ・ハットに関する担当者会議を設置し、会議の中で共有された情報を、全社へ情報発信するとともに、定期的に経営陣に報告しています。

### 運転職場でのヒヤリ・ハット情報の収集と活用の例

池上線・東急多摩川線の運転を担当している雪が谷大塚乗務区では、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用を運転士が主体的に行う取り組みを実施しています。

ヒヤリ・ハット事象が発生した場合、

- ① 概要を速報で職場内へ掲出・業務用タブレット端末に電子公開
- ② 処置方法を問題形式にした掲示物を掲出・業務用タブレット端末に電子公開
- ③ 処置方法の解答・解説を業務用タブレット端末に電子公開を行います。

また、路線図をもとにしたリスクマップを2か月おきに作成・掲出し、付箋を使って運転士個人が気付いたリスクを追記できるようにして更新を続け、業務用タブレットに電子公開も実施しています。これらの取り組みを通じて、経験の浅い運転士のミス的大幅減少やホーム上の警備体制の見直しにつなげています。

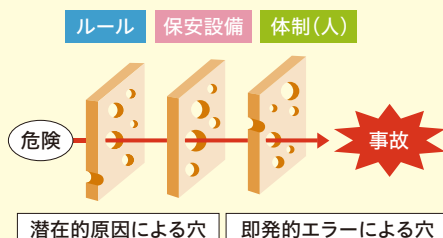


路線図をもとにしたリスクマップ

## 安全MEMO

### 事故と要因の関係を表す「スイスチーズモデル」

事故はいくつかの要因が重なったときに起こります。それを示したのが、「スイスチーズモデル」です。ルール、保安設備、体制（人）などの安全対策を1枚1枚のチーズで、事故の要因をチーズの穴で表し、チーズにあいた穴（要因）が重なったとき、事故が起こるという考え方です。当社では、ひとつひとつの穴をつぶすだけでなく、その穴が重ならないよう、全社をあげて日々、事故防止に努めています。



## 安全意識向上のための取り組み

従業員一人ひとりの安全意識を向上するために、さまざまな取り組みを行っています。

### ● 東急安全の日

2014年2月に発生した東横線元住吉駅列車衝突事故を風化させないために、社員一人ひとりが事故を振り返り、事故と向き合う場として、東急安全の日を設定しています。2021年2月に第7回東急安全の日をオンライン開催し、約1,200名が参加しました。

渡邊社長から「東急安全の日は元住吉の衝突事故を永遠の教訓とし、鉄道で最も大切な安全について、みんなで考え、みんなで誓いあう一日。みんなで知恵を出し合って、さらなる安全を追求していきましょう」というメッセージが、城石安全統括管理者からは「安全に対して我々は慢心することなく、常に謙虚でいなければならない。現状に満足することなく、絶えず考えていく必要がある。そのために一人ひとりの意識や行動が大切。安全の確保は一人だけでできるものではなく、みんなで力を合わせてはじめて実現できるもの。より高い、より強い意識をもって業務にあたっていただきたい」というメッセージが送られ、参加者一同、安全への思いと当事者意識を新たにしました。



渡邊社長



城石安全統括管理者

### ● 安全共創館の整備

2021年秋に、安全最優先で行動できる従業員を育成することを目的とした安全教育施設が完成予定です。「安全を共に創り上げていく」意味を込めて、名称を「安全共創館」とします。安全教育プログラムも強化し、従業員の安全意識向上を図ります。



安全共創館内の研修室（イメージ）

### ● 安全かわら版

安全戦略推進委員会では、鉄道事業本部の安全に関する取り組みとして「安全かわら版」を定期的に発行しています。各号ごとに旬な情報を中心に各職場の安全に対する施策を紹介したり、事故の未然防止につながった“ファインプレー”などを、鉄道事業本部全体に共有しています。

